

クローズアップ。 日・光・人

日光市で活躍している人、サークルを紹介します。

サークル

人

藤原の明日を語る会(以下、語る会)は、まちの活性化などを目的に活動する団体です。旧藤原町教育委員会が青年層を対象に実施した、まちづくりのための懇談会「藤原の明日を語る会」の参加者が懇談会後も集まり、新たなメンバーを加えて活動しています。これまでの主な活動には、鬼怒川温泉街の橋で毎年夏に行う「ふれあい橋ビアガーデン」の運営や、「サンタが家に来てくれる」があります。サンタが家にやってくるのは、あらかじめ家族が用意したプレゼントを預かり、クリスマス



にサンタクロースの扮装で子どもたちや高齢者に届けるというもので、藤原地域の子育てサークル「のびのびキッズ」が始めた事業です。語る会は2年目から参加しており、4年目の今回は、対象地域を藤原地域から市全域に広げるため、ほかの地域の市民団体などに声をかけ、実行委員会を組織。市の補助金を受ける事業にも選ばれ、市内各地域105軒に夢を届けました。ほかの団体との交流も大きな目標としている語る会。語る会を主体に日光商工会議所と鬼怒川・川治温泉旅館協同組合の青年部で始めたビアガーデンは、多くの団体が参加する地域ぐるみのイベントになりました。サンタが家にやってくるにも、



サンタが家にやってくるのでーコマ

自分たちの手で、まちを生き生きさせたい

藤原の明日を語る会

あす

今市青年会議所や各NPO、川治PTA、楽ツ子の会など、多くの団体が加わり、ネットワークが広がっています。メンバーの筒井巖さんは、「新潟県中越地震の際の物資運搬や、ふれあい橋に絵を描くなど、メンバーの提案でいろいろなることを行ってきました。今後フットワークの軽さを生かして活動していきたい。皆さんも一緒に活動しませんか」と話してくれました。

紹介したい人、サークルを募集します

クローズアップ日・光・人では、日光市で活躍している人、サークルを紹介していきます。このコーナーで紹介したい人やサークルの情報がありませんら、ぜひお寄せください。なお、自薦、他薦は問いません。※広報にこの掲載にふさわしくない活動内容が含まれている場合、紹介をお断りすることがあります。連絡先及びくわしくは秘書広報課 広報広聴係 ☎(21)5135

活動データ
活動場所 市内全域
会員 20名
問い合わせ先
筒井巖 ☎(76)1703
Eメール
iwasan@sunfield.ne.jp



市内のプロアイスホッケーチーム、HC日光アイスバックスのシニアディレクター(代表取締役)を務めているセルジオ越後さんを紹介しています。セルジオさんといえばサッカーの評論家として有名ですが、アイスバックスのシニアディレクターに就任したきっかけをこう話してくれました。「最初はファンの一人として、試合を観戦したり選手たちと交流したりしていました。ある時、チームの財政事情が厳しいこともあり、運営会社から何かお手伝いをしてくださいませんかという話をいただきました」

した。それで、2年前から本格的にチームに携わるようになったわけだ。日本では、アイスホッケーはマイナースポーツです。アイスバックスの選手が街を歩いても、誰も振り向きません。ですから、私が広告塔としてチームの知名度や好感度を上げなければなりません。なぜなら、テレビやラジオ、雑誌などに多く取り上げてもらったことは、プロスポーツにとって非常に重要だからです。昨年7月に住まいを市内に移したセルジオさん。その理由を聞くと、「仕事の効率を

考えれば、日光に住むのは当然じゃないですか。チームや地域に貢献しようというのに、日光に住まなかったら意味がないですよ」と、さらりと答えてくれました。セルジオさんに、アイスバックスの将来について伺いました。「市民はもちろん、県民の皆さんの生活にアイスバックスがあり、そんなチームにしたいですね。栃木県には今やサッカーやバスケットボールにもプロチームがあります。こうした種目を超えてスポーツの輪を広げていけば、アイスホッケーもきっと有名になるでしょう。試合に勝つことも大切ですが、それだけでなく、1年を通してあらゆる機

セルジオ越後さん

えちご

私が広告塔となり、何としてでもアイスバックスを存続させる



12月29日に市内で行われた日本製紙クレインズ戦。試合に勝ち、ベンチで喜ぶセルジオさん。

会に多くの人と触れ合い、役に立つことで、地域に貢献できればと思います。」「何としてでもアイスバックスを存続させる」と決意を語ってくれたセルジオさん。これからはチームの広告塔として、そして精神的支柱として頑張ってください。

相生町 在住